



# リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2020レポート



主催

公益財団法人日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフ・ジャパン実行委員会

## 2020年度のリレー・フォー・ライフ活動を終えて

がん患者とそのご家族を支援し、地域社会全体でがん征圧を目指し、年間を通じて行なわれるチャリティー活動のリレー・フォー・ライフ（以下RFL）。今年度は新たに秋田県秋田市（県内初）、千葉県柏市（県内復活）、岐阜県東美濃市（県内2カ所目）、鳥取県境港市（県内初）の4地区が新たな仲間に加わり、全国52地区にて活動を予定いたしました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、全ての地区にて活動中止や大幅な縮小をせざるを得ない状況となりました。

これまでに経験した事のない状況となりましたが、何かできることはないかと検討を重ね、セルフウォークリレーなど新たな企画を提案、ボランティア実行委員会の皆様とともに取り組みました。また、実行委員の皆様が、独自にできることも積極的に検討していただき、リレーの心の灯を消さず、活動を続けていただきました。

全国各地で多くの感染者が出ている中、けがや事故もなく無事終わることができたことは大きな自信となりました。それは人と人の絆を生み、がんと向き合う勇気と生きる希望を育むRFL活動の新たな一歩となりました。

このレポートは、2020年度各地区の実行委員会の方からの活動報告およびRFLへの想いをまとめたものです。是非、全ての投稿にお目通しいただければ幸いです。

最後になりましたが、全国の実行委員会および関係者の皆さま、そして、ご支援とご協力をいただきました皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、更なるご支援とご協力を賜ります様、お願い申し上げます。

公益財団法人日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフ チーム一同

岡本宏之	(日本対がん協会事務局長・RFL統括)
平野登志雄	(RFL チームマネジャー)
原優子	(RFL チームアシスタントマネジャー)
松島順子	(RFL チーム)
高橋秀也	(RFL チーム)
大菅善章	(スタッフパートナー)
時森由佳	(スタッフパートナー)
堀均	(スタッフパートナー)
山本克枝	(ブロックスタッフ)
佐藤隆次	(ブロックスタッフ)
郷州葉子	(ブロックスタッフ)
三阪善子	(ブロックスタッフ)



## リレー・フォー・ライフとは

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指します。1年を通じて取り組むチャリティー活動です。

1985年、一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。共に歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、現在世界約30ヶ国、約4500カ所で開催され、年間寄付は300億円にのぼります。

リレー・フォー・ライフ活動の締めくくりとしてウォークイベントが開催されます。会場ではチームの仲間とタスキをつなぎ、がん征圧を願い歩きます。



## RELAY FOR LIFE の使命と3つのテーマ

# Save Lives

セーブライブス

祝う

Celebrate

がんの告知を乗り越え、今を生きているサバイバーや家族などの支援者を讃え、祝福します。

しのぶ

Remember

がんで亡くなった愛する人をしのび追悼します。また病の痛みと悲しみと向き合っている人たちを敬います。

立ち向かう

Fight Back

がんの予防や検診を啓発し、征圧のための寄付を募り、がんに負けない社会をつくりまします。

3つのテーマに支えられ、使命である Save Lives が成り立っています

# 2020年度 リレー・フォー・ライフ 新たな取組み

2020年度は、コロナウイルスの影響により、リレー活動は困難を極めました。コロナ禍のもと、日本対がん協会のリレー本部で主導し実行委員会の皆さんと共に実施した新たな4企画をここに紹介します。

日本のRFLは2006年にプレ開催されて以来15年の月日が流れました。時代と共にRFLも進化する時がきたようです。

## RFLセルフウォークリレー

実施日 10/24-11/23

### 目標3億歩達成! 電話相談5,414件分の寄付

参加者が好きな時に好きな場所で歩いた歩数をスマホアプリに登録。歩数に応じた金額が支援企業からマッチング寄付される新しい形のオンラインイベントを実施しました。

日本対がん協会と10地区のRFL実行委員会が主催し、サバイバーの原千晶さんやだいたひかるさんらもアンバサダーとして共に歩いてくれました。HPやSNSをはじめ、各地区のメディアを通じ企画を配信した結果、全国で2,006人が参加し、目標の3億歩を達成することができました。

RFLへの特別協賛企業や実行委員会を經由し集まった寄付額は2,165万円。日本対がん協会が運営している「がん相談ホットライン」の相談5,414件分の費用に充てられました。

発案者、苫小牧実行委員の貴美さんからのメッセージです。「途中、病院や病棟で過ごす日もありましたが、どんな時でもどこかの誰かに繋がっている。直接会う事ができなくても、その場に行く事ができなくても皆さまからの素敵な写真やコメントで“つながり”を感じ、明日への希望と勇気をいただきました。」

実施に向けセルフウォークリレーをリードいただいたとまこまい、さいたま、東京上野実行委員会に感謝し、あらためて敬意を表します。ワーキンググループとしてご支援いただいた、きたかみ、御茶ノ水、大分、沖縄うらそえ、とちぎ、室蘭、いわての実行委員会の皆様、そしてご参加、ご支援いただいたすべての方に深く御礼申し上げます。



### セルフウォークリレー 最終結果

参加者数  
**2,006人**

歩数  
**349,801,473歩**

歩数目標3億歩  
達成率**117%**

マッチング寄付額  
**21,655,204円**

\*個人寄付等すべての収入を含む

**2020年度寄付金の使い道** チャリティ活動が制限されたなか、各実行委員会や協賛企業から寄せられた寄付金は、主に「がん相談ホットライン」のために集中して使用されました。海外奨学医派遣と研究「プロジェクト未来」への助成は叶いませんでした。

## RFLグッズを身に付けて応援しよう

第1回申込受付 6/28-7/7  
第2回申込受付 8/4-8/18

オンライン寄付キャンペーンのひとつとして行いました。ご寄付いただいた方にRFLグッズをお送りし、「グッズを身に付けて気持ちをひとつに繋げ応援しよう」という取り組みでした。

このキャンペーンにより、総額837,000円のご寄付をお預かりしました。グッズ製作費や送料など、必要経費を除いた612,786円を「がん相談ホットライン」の運営経費として使用しました。



## One team One heart オンライン寄付キャンペーン

実施日 8/1-10/31

直接お会いして寄付を募るということができない中で、既存のオンライン寄付のシステムを使い、クラウドファンディング型のキャンペーン「One team One heart オンライン寄付キャンペーン」を行いました。7つの実行委員会が参加し、合計の寄付金額は30万円に上りました。

賛同者の方には返礼としてクリアファイルとメッセージシートをお送りし、リレーへの想いなどをSNSを通じて発信していただきました。



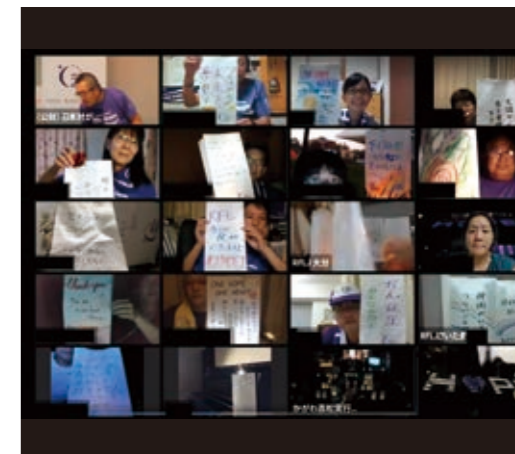
## ONE HOPE NIGHT ~同じ空のしたで~

開催日 8/3

RFL創始者、ゴルディー・クラット氏の命日である8/3夜、オンラインイベント ONE HOPE NIGHT ~同じ空のしたで~を開催しました。

コロナ禍であっても、がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたいという思い、そしてどんな形であれ仲間と会いたい、繋がりたいという皆さんの想いから生まれたものです。

今回のオンライン上でのイベントは、zoomでのご参加に加え、Facebookライブという形でもたくさんの方々にご視聴いただきました。



## 北海道 室蘭市

## 室蘭実行委員会

## | 来年はまた室蘭で！

「がんと共生する時代へ。あなたと一緒に、明日への希望につなげたい。」

毎年、皆さんから好評を得ておりますロケーションの中で開催していたRFLJ室蘭も、今年は新型コロナ感染拡大のために止む無く断念いたしました。コロナ禍の中でも何かできないかと思いついていたところ、全国の仲間とオンラインで繋がり、自分の1歩が寄付に繋がるセルフウォークリレーの話があり、実行委員会としても参加することといたしました。スマホで参加申し込みの出来なかった方やチームでの参加など、多くの参加を頂きましたし、企業寄付につきましても、コロナ禍のため郵送のみのお願いにもかかわらず、多くの企業様からご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます。

現時点においては、まだまだ新型コロナ感染症の拡大状況におり、収束の見通しが立たない状況ではありますが、一日も早く収束し、また室蘭の会場で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

実行委員長 野尻 秀一



総収入	752,500円
実行経費	115,450円
寄付総額	637,050円

## 青森県 八戸市

## 八戸実行委員会

## | リレーフォーライフとともに、生きる

八戸のリレーフォーライフは、6月20日～21日に実施予定でした。

2月12日にトレーニングを受け、2月23日のサミット、24日のキックオフには小渡が参加し、リレーフォーライフ開催の可能性を探るべく実行委員会を開催しては議論を重ねました。しかし未知のウィルス・コロナによる状況は悪化の一途をたどり、ついに開催断念の止むなきに至りました。3月には当地最大の基幹病院の医療従事者複数名が感染し、地域は重い空気で覆われていきます。昨年までのリレーの会場を満たしていた喜びに満ちた笑顔や弾む心は幻のようです。ごく少数のスタッフの会議を除いて、実行委員会も開催できません。

それでも前を向くサバイバーやケアギバーとの新たな出会いはうれしいです。生後4カ月で女兒が「骨髄性白血病」を発症。1年近い闘病を経て現在も化学療法のため通院を続け、症状も落ち着いている家族。若いご両親はこの体験を同様ケースの家族の支援に生かしたいと活動を始めました。

両肺ステージ4の女性肺がん患者Aさんは大病院の主治医から「これ以上治癒の可能性なし」と宣告されましたが、自らネットで探した地域外の病院で遺伝子検査による分子標的薬治療を受けており、順調な日々を送っています。がんに係る科学と医療の進歩は日進月歩。がんをポジティブに生きる、それがリレーフォーライフ。

来年こそ、日本で、世界で、リレーフォーライフが開催できますように。

実行委員長 小渡 章好



総収入	191,997円
実行経費	162,811円
寄付総額	29,186円

## 北海道 苫小牧市

## とまこまい実行委員会

## | 希望をつないで歩き続けたセルフウォークリレー

昨年は新型コロナの蔓延で「RFLJ2020とまこまい」も10月に開催を延期してその収束を待ちましたが、残念ながら状況は好転せず開催を断念いたしました。虚無感の漂う実行委員会に「小さくてもいいから、みんなの思いをつなぐイベントをしませんか」と、一人の実行委員から提案があったのは5月初旬でした。その時点でYouTubeやZoomによるオンラインイベントが各地で予定されておりましたが、私たちはRFLの『歩く』をキーワードにして、参加者が身の回りの安全な場所を歩き、その歩いた歩数を集めて寄付を募る「セルフウォークリレー」を企画し、再始動することにしました。

5月末、私たちの取組みをRFL全国緊急会議で紹介したところ、多くの実行委員会から賛同をいただき、このイベントは各地の実行委員会と日本対がん協会が協同する「RFL・セルフウォークリレー」へ進展しました。

10月24日、イベントがスタートすると、「これまでリレーに参加出来なかったがやっと参加できた」、「遠く離れている仲間とSNSで励ましあって歩いている」、「誰かのために歩けることへ感謝です」など、思いがけないメッセージを多数頂戴しました。

コロナが無ければ誰も思いつかなかったセルフウォークリレー。このイベントを全国の実行委員会や日本対がん協会の皆さんと一緒に作り上げたことを嬉しく思っております。「RFL・セルフウォークリレー」へご支援・ご参加いただきましたみなさまに心より感謝申し上げます。

事務局長 下村 達也



総収入	1,431,100円
実行経費	201,980円
寄付総額	1,229,120円

## 青森県 青森市

## 青森実行委員会

## | こんな時だからこそ…

日頃からご支援頂いている皆様におかれましては、今年度も大変お世話になりました。今年度はコロナ禍の状況において、実行委員会を含め協議した結果、サバイバーの方々の体調第一と考え開催を見送らせて頂きました。

様々なご意見はありましたが、適切な判断だったと思っております。その中において各実行委員は自ら考え啓発活動をしてくれたことに感謝致します。

もうひとつは365日24時間寄付活動してくれている支援自動販売機です。この状況下において自動販売機が何よりの寄付活動でした。

ご支援頂いている皆様が、この自販機を見つけて購入してくださっている姿を思い浮かべると感謝しかありません。

今年度は残念ながらリレーイベントでお会いできませんでしたが、来年こそは皆さんと再び元気なお会いできることを楽しみにしております。

事務局長 加藤 幸二



総収入	101,203円
実行経費	0円
寄付総額	101,203円

## 岩手県 一関市

## いわて実行委員会

## 「想いを胸に繋げていく」

今年は、コロナ禍で様々なイベントが中止になったり、縮小せざるを得ない状況である。リレー・フォー・ライフの24時間イベントの開催も、今年は各地で中止となった。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパンいわて」も当初9月上旬の予定であったが、3月には中止の決断をした。その後、毎月行われる準備会で話し合いが行われ、「開催したい」から何とかしてイベントを「開催しよう!」となった。「数時間でも良いからやろう!」と。

天候の心配のない体育館を借りて、9月5日(土)の午後6時から2時間のイベント開催となった。実行委員のみんなはテキパキと準備をした。そして、予想を大きく上回る方々が会場に足を運んでくれた。サバイバーの方も、何年もの間ケアギバーだった方も集まって、あちらこちらで語り合った。地元高校の音楽部の皆さんもビデオで音楽を提供してくれた。

エンプティテーブルの周りに置かれたルミナリエを、3密を避けて間隔をあけながら思い思いに読んでいる様子は感無量であった。エンプティテーブルの詩の朗読も例年以上に心に沁みだ。コロナ禍のなかでも皆の想いは繋がっているんだと強く感じた。僅か2時間のミニイベントであったが、記憶に残る素晴らしいイベントとなった。

来年は一関でのリレー・フォー・ライフの10周年の節目にあたる。今回の想いを胸の刻み来年の開催に向けて繋げていきたい。

## 事務局長 佐藤 隆次



総収入	1,104,765円
実行経費	91,230円
寄付総額	1,013,535円

## 宮城県 仙台市

## みやぎ実行委員会

## 「新しい形のRFLみやぎに向けて」

RFL2020みやぎも10/10に予定していた24時間のイベントを中止としました。医療や介護の現場で働く実行委員も多かったため、早い段階から実行委員同士が集まることは難しくなりました。職場や家庭などで、これまで経験したことのない感染症対策に追われ、また物資不足も深刻でした。影響は甚大で、正直なところ、身心ともにしっかりとRFL活動に向かうだけのエネルギーを持つことが難しかったのです。協賛団体への寄附金のお願いや募金箱設置などの連携も滞り、収入は全く目途の立たないものとなりました。

そんな中、2020みやぎはオンラインでのイベントを行い、RFL活動の理念を伝え、認知度向上を目指す方向に舵を切りました。

RFLの使命「Save Lives」と3つのテーマ「Celebrate」「Remember」「Fight Back」をオンラインイベントのテーマとして、イメージ動画、対談、シンポジウム、ライブ配信など様々な形のイベントを行いました。ZoomやF B、YouTubeなどの多様なツールを利用することでオンライン広報やイベントの行い方を研究することも出来ました。オンラインでの新しいアプローチでしたが、RFLの理念とテーマを改めて学びなおし、伝えられたことも、実行委員にとって大きな意義であったと感じています。

東日本大震災から今年で10年。大震災の絶望の中から、東北の新たないのちが芽吹いています。大震災とコロナ……未曾有の苦難の中から生まれた「慈しみ」とともに、RFLみやぎは歩んでいきます。

## 実行委員長 高橋 悦堂



総収入	200,000円
実行経費	193,000円
寄付総額	7,000円

## 岩手県 北上市

## きたかみ実行委員会

## 「誰のために、何のためにを忘れずに…」

2019年11月、新たな実行委員も迎え歩みだしたRFLきたかみ実行委員会でしたが、集大成であるリレーウォークイベントは、新型コロナウイルス感染防止対策の為、中止といたしました。

その後の活動をどうするか…zoomを活用し事務局会議、実行委員会を重ね「誰のために、何のために」この活動があるかを忘れず話し合いました。

その中で年間の啓発活動として、感染防止対策講じ、イエローシート活動、医療講演でのPR、募金箱設置協力をお願い等行いました。特に、リレーウォークイベント予定だった6月6日にYouTubeにアップしたスペシャルムービーは、リレーウォークイベント会場のみちのく民俗村で、ホームページ担当が撮影し作成。RFLきたかみの年間活動を紹介する素敵な動画となりました。参加した実行委員は、久しぶりに仲間と会い、笑顔の絶えない大切な時間でした。動画撮影に使用したRFLきたかみの年間活動を紹介したパネルは、岩手県立中部病院がん情報サロン虹に展示し、展示期間を過ぎた現在も、場所を変え院内に掲示しております。

RFLきたかみ2021年に向けて、コロナ禍でもできることを考え「誰のために、何のために」を忘れず「がんになっても住みよい街きたかみ」を目指し、笑顔の絶えない実行委員会として活動して参ります。

RFLきたかみ2020の活動にご協力、ご支援頂いた多くの皆様に感謝申し上げます。

## 実行委員長 高橋 寛美



総収入	232,327円
実行経費	232,327円
寄付総額	0円

## 秋田県 秋田市

## あきた実行委員会

## 「RFLあきた開催に向けて」

RFLあきた実行委員会では2020年7月に記念すべき秋田での第1回目のリレーイベント開催に向けて活動してきました。しかしながらコロナウィルス拡大の影響で、参加者および秋田の方々の安全性を考慮し苦渋の決断の上で開催を延期させていただきました。秋田県は湯治で有名な玉川温泉もあることから、全国から多くの皆様に秋田でのリレーイベントをお楽しみいただきたく準備してまいりましたが、本当に残念です。

2020年度の開催に向けて私たち実行委員会の目標は『周知』でした。秋田県において、リレー・フォー・ライフ・ジャパンを知っていただき、秋田県のがん患者さんを地域全体で支えていけるよう礎を築くことを目標に活動してきました。日本対がん協会の秋田県支部である秋田県総合保健事業団のご協力もいただきながら実行委員会を開催してきました。主な活動は各地区の市民講座などでリレーのブースを準備していただき、募金活動やルミナリエの紹介、また秋田の伝統行事の一つである竿灯まつりにおいても、フラッグを持ってのパレードに参加、広く県民の方々への周知を行ってまいりました。

今年度も地道ながらもがん患者さんが孤立せず、地域で支えていける社会を作るために活動していきます。

## 実行委員 守田 亮



総収入	0円
実行経費	0円
寄付総額	0円

## 福島県 福島市

## 福島実行委員会

## RFLJ福島2020新ステージ11回開催断念

今年のRFLJ福島は、残念ながらイベント開催はできませんでした。

10年という節目を超え、11回目という新たなステージへと実行委員一同意気込んで第1回実行委員会では、コロナの影響はあるものの開催に向けて「形は変わっても歩みは止めない」と進み始めました。しかし、色々な状況を踏まえ4月の第4回実行委員会で開催中止を決定しました。このTシャツは、今年のもので、若い実行委員が福島のために親しみやすいデザインを考え、皆気に入っています。2021年は、11回・12回同時開催で動き出します。

いくつか、実行委員からの言葉をここでご紹介したいと思います。

「若い人達にもっと興味を持ってほしい、年に1度でもいいからがん目に向けての機会を作ってほしい、身近な方ががんになるという経験が少ないであろう若年層にも、RFLの取り組みが広がってほしい、医大の学生や医療系の専門学生にも取り組みが広がるといいなと思っています。」

「RFLは、サバイバー支援者も何かを感じ考える機会でした。加えて未知の感染症の恐怖、がん以外の多くの難病…一人ではどうする事もできない事をこれからも多くの仲間と共に前に一歩進めることを願っています」

「コロナ禍、行動が制限され検診後の予防、治療につながっているのか疑問です。検診を受けましょう」

「リレーでお会いできる日がきっと来る、その日を楽しみに」

2021でお会いしましょう。

実行委員長 渡邊 忠



総収入	0円
実行経費	0円
寄付総額	0円

## 群馬県 前橋市

## ぐんま実行委員会

## 台風、コロナ、笑顔のリレー

今年第8回目となるRFLJぐんまは、台風でイベント中止となった昨年に続き、新型コロナウイルス感染防止のため会場での開催を断念しました。開催を楽しみにいただいていた皆さんに少しでもリレーの雰囲気をお届けしたいとの思いから、群馬県庁と県立がんセンターを会場としたルミナリエイventを行い、SNSを利用してLive配信を行いました。様々な思いが込められた数百のルミナリエが会場を照らす中、今共に生きていることをよこび、亡き人を思い、がんの予防や早期発見・治療への強い意志を皆で再確認しました。

また、例年参加頂いている30チームの協力を得て、リレー動画を制作・配信しました。高校生や大学生からのさわやかなメッセージ、ユーモアあふれるウクレレ演奏、毎年おなじみの戦隊ヒーロー、笑顔と温もりにあふれたサバイバーチームからのメッセージ、素朴なメッセージあり、字幕やBGM付きの本格的動画ありと、バラエティーに富んでいました。2年連続で会場に集えないのは、サバイバーやご家族の皆さまにとっても、各チームメンバー、実行委員メンバーにとっても、大変辛く残念ですが、笑顔やユーモアがあふれるリレー動画は笑顔のリレーとなり、私たちに希望を与えてくれました。

最後になりますが、事務局の群馬県健康づくり財団の皆さん、協賛企業、ボランティアの皆さんをはじめ、応援して下さいました皆様の方々に心から敬意と感謝を申し上げます。

副実行委員長 狩野 太郎



総収入	3,962,454円
実行経費	828,053円
寄付総額	3,134,401円

## 栃木県 壬生町

## とちぎ実行委員会

## とちぎ2020から2021へのリレー

2020年は今まで以上にRFL活動について考えることの多い1年でした。冬の1月「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020とちぎ実行委員会」が始動しました。しかし、春、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で事態は一変。RFLとちぎを開催するかしないかの決断を迫られ、屋外とはいえ多くのサバイバーを含め、1,000人以上が参加するイベントでの感染リスクを考え、やむなく中止を決定しました。その後、実行委員会が開催されないまま、いつもだったら準備で慌ただしいはずの夏も過ぎたころ、「RFL全国統一イベントセルフウォークリレー（SWR）の開催」を知りました。出遅れたとちぎは「今、自分たちができることをできるだけやろう」と、とまこまいの下村さん、対がん協会にお世話になりながらZOOMで久しぶりの実行委員会を開催し、すべり込みでSWRに参加することができました。そして秋、実行委員はサバイバーさん、賛同して下さった皆さま、そして全国の仲間と一緒に1ヶ月歩きました。冬、まだまだ新型コロナウイルス感染症は猛威を振っています。そんな中、「がん患者支援イベント」としてのRFLが、サバイバーだけでなく、参加者、スタッフ全員が安心安全に開催できるのにはどうしたらよいか。「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2021とちぎ実行委員会」の中で、2020年の分もサバイバーに寄り添える活動を考えていきたいと思っています。

副実行委員長 荒川 正子



総収入	267,100円
実行経費	267,100円
寄付総額	0円

## 埼玉県 さいたま市

## さいたま実行委員会

## 「2020STYLE」での活動

今年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年同様のリレーイベント開催は見送ることを決めたのは5月の会議でした。それでもがん患者支援の想いを止めてはいけない！とできることを模索し続けました。

新たな試みとして、8月に「One heart One team オンライン寄付キャンペーン」を開催し、「オリジナルグッズの作成販売」もしました。

オリジナルグッズの1つであるTシャツは医療従事者に感謝の気持ちを表す青色とし、そのTシャツを身に付け9月12日「特別な年の特別なプチセレモニー」と題し、実行委員のみでエンブティテーブルセレモニーを開催しました。いつもの広場と違い、小さな倉庫でしたが、みんなの思いがひとつになった忘れられないセレモニーになりました。

10月には大竹実行委員長が春先の企画の段階から携わってきた「RFLセルフウォークリレー」に参加するなど、RFLJさいたまは「2020 STYLE」で活動してまいりました。結果的に昨年以上の寄付金を対がん協会に届けることができ、改めてご協力頂いた多くの方々に感謝申し上げます。

コロナ禍で新しい生活様式に変わっても、これまで同様、地域に根差したがんサポーターの和（輪）「迷わせない・困らせない・ひとりにさせない」をスローガンに、がん患者と家族の支援に軸足を向けた企画や啓発活動を通して、地域社会と一緒にがん征圧活動に取り組んでまいります。

事務局長 菅谷 雅彦



総収入	2,048,263円
実行経費	1,036,332円
寄付総額	1,011,931円

## 埼玉県 川越市

## 川越実行委員会

## ひとりじゃない いつもここにいるよ

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、ご参加いただく皆様の安全を第一に考え、誠に残念ではありますが、会場でのリレーイベントを中止させていただくことと致しました。

毎年、このリレーを楽しみにしている皆様には、大変申し訳なく思っております。皆様が感じている「集うこと」「共に過ごすこと」への不安感から、通常の形での開催は困難になりましたが、リレーを楽しみに待っている皆様とのつながりを何とか持つことができないかと模索し、インターネットを通じたバーチャルリレーを実施することといたしました。

バーチャルリレーは初めての試みであり、本来のリレーの温もりを皆様にお届けできないのではないかと不安も実行委員の中にはありましたが、これまでリレーに参加いただいた皆様の心温まる協力を得て、たくさんの動画をお届けすることができました。

また、このような時期にもかかわらず、ご厚志を賜りましたご寄付・ご協賛団体の皆様にはあらためて御礼申し上げます。

来年こそは、この川越の地で皆様方にお会いすることをお約束し、新たな活動をスタートさせていただきます。引き続き、ご高配賜ります様心よりお願い申し上げます。

## 実行委員長 細谷 治



総収入	355,059円
実行経費	211,829円
寄付総額	143,230円

## 東京都 台東区

## 東京中央実行委員会

## オンラインならではの開催をめざして

毎年「東京上野」のイベントは上野恩賜公園で、来場者約1万人と盛大に開催されてきました。今年も10月17・18日に同所で開催を予定し、準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大から、10月17日（土）、Zoomでのオンライン開催に変更しました。

オンライン開催は初めてで戸惑いもあり、最初は右往左往の連続でしたが、オンラインでの実行委員会、チームの方々と会議を重ね、「オンラインならではのイベントをめざす企画」になったのではと思っています。オンラインなら遠方、海外からも参加できる。香港に居られたアグネス・チャンさんに1コーナーを担当してもらいました。シンガポールの Mr.Ellil Mathiyenさん（Global RFL heros of hope）にサバイバートークをお願いしました。啓発講演も遠方から行って頂きました。

PRは、ホームページの他、Facebook等SNS、口コミ、東京都福祉保健局Twitterでの告知、加えてイベント管理サイトでの参加者募集と上野名物ラッフルくじ販売も行いました。募金も予想以上集まり、参加者も200名を超え、一時はアクセスが殺到して入れないなど、大変盛り上がったイベントとなりました。

反省点も多々ありますが、多くの参加者から「参加できてよかった」「良いプログラムだった」という有難いお言葉も頂きました。来年はリアル開催できるの分かりませんが、与えられた環境下でミッションを果たせるよう努力したいと思います。

## 事務局長 松原 幹夫



総収入	1,675,261円
実行経費	170,682円
寄付総額	1,504,579円

## 千葉県 柏市

## ちば実行委員会

## 初開催は幻に。来年こそその気持ちを大事に！

今年度千葉県柏市での初開催を計画して準備を進めてきました。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大の影響で予定していたイベントを開催することができませんでした。動画配信等についても提案がありましたが、実際に一度も開催経験のない中では難しいという意見が多く、開催予定日当日に実行委員の数名で現地付近を歩き、Celebrate,Remember,Fight Backを改めて確認しました。来年の状況についてはまだわかりませんが、まだ感染が収まらなければ、ルミナリエ動画やサバイバーの手形、セルフウォークも含めできることを考えていきたいと思っています。またそのために実行委員会の打ち合わせの方法についても検討しています。何より、医療者やがん患者だけでなく多くの影響がある感染症については、少しでも早くの終息を心から祈っています。

## 副実行委員長 菊地 恵美子



総収入	20,710円
実行経費	20,710円
寄付総額	0円

## 東京都 文京区

## 御茶ノ水実行委員会

## コロナ禍におけるオンライン開催への思い

5月に予定していた本年度の御茶ノ水のリレーイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響により10月3・4日に延期開催となりました。しかし、依然として予断を許さない状況であったため、従来の会場での開催は断念し、ZoomやYouTubeを活用した、オンライン上でリレーイベントを行うことといたしました。24時間のイベントをオンラインで行うことは前例のないことであり、一方向的・受動的になりやすいオンラインの環境下で、どのようにしたら双方向的なリレーイベントにすることができるかなど、参加形式から企画の考案に至るまで沢山の話し合いと検討が必要となりました。しかし、オンライン開催にしたことによって、従来のリレーであれば参加することが叶わない、入院中・闘病中で会場に足を運ぶことができない方々の参加が可能となりました。さらに、誰でも簡単に本イベントにアクセスすることが可能となり、リレー・フォー・ライフについてより多くの人々に知ってもらうきっかけにもなったかと思えます。不安や孤独感をより感じてしまうコロナ禍の今だからこそ、前向きな気持ちをもてるような、そして一緒に闘っている仲間がいることを感じる事ができるリレーを届けたいという思いで、今回イベントを開催しました。私たちの思いがひとりでも多くのがんと闘っている人たちに届いていることを願っています。ご協力・ご支援いただいた皆様に、実行委員一同心より感謝いたします。

## 実行委員長 柴山 春奈



総収入	535,511円
実行経費	4,208円
寄付総額	531,303円

## 神奈川県 横浜市

## 横浜実行委員会

## がんで悲しみ悩む人がゼロになる日を目指して

8回目となる臨港パークでのイベントも無事終了致しました。コロナ禍で時間も人数も縮小しての開催となりましたが、皆様の温かいご協力により予想以上の寄付が集まりました。本当にありがとうございました。

皆様のご協力が、現在、そして未来のサバイバーへの希望（HOPE）に必ずつながります。がんで悲しむ人や悩む人がゼロになる日はきっと訪れます。その日をみんなで祝い出来ることを目指してこの活動を継続していきます。来年はコロナが終息して、会場で皆さんに会えることを実行委員一同楽しみにしております。感謝。

実行委員長 池田 誠吾



総収入	947,347円
実行経費	321,101円
寄付総額	626,246円

## 石川県 金沢市

## 石川実行委員会

## 2020年から2021へ、つなぐココロ

石川県でのリレーフォーライフの活動が始まって3年目。まだまだ手探りですが、少しずつ石川のメンバーが大切にしたいことも見えてきたところでのコロナ禍でした。そんな2020年の活動として、ようやく芽生えたつながりを紡ぐため、私たちは動画の配信とメッセージツリーという方法を選びました。

まずは動画の作成から。

一人一人の生活にも制限がかかる日々の中、久しぶりに運営メンバーが顔を合わせ、2019年から引き継いだ想いを込めて、ルミナリエに灯をともしました。優しく光るルミナリエで小さな文字を並べると、ココロもあたたかくなりました。メッセージツリーは、市内のシンボリックな建物、しいのき迎賓館に設置しました。作成した動画をYouTubeで発信して、SNSでメッセージを募ったところ、1ヶ月かけて111枚のメッセージがツリーを彩りました。

今がんばっている方や、がんばり抜いた方へのメッセージ加えて、通りがかりの方が共感して、足を止めて書いてくださったようなもの、小さなお子さん連れで書いてくださったのかな？というかわいらしいものあり、いつもとはまた違う角度からリレーフォーライフを知っていただくきっかけにもなったように思います。

先が見えない状況ではありますが、2020年から2021年へココロをつないでゆきたいと思えます。

実行委員長 龍澤 泰彦



総収入	23,448円
実行経費	23,448円
寄付総額	0円

## 新潟県 新潟市

## にいがた実行委員会

## 1人じゃない!! たがいに・にいがた

6年目となる新潟開催は、初のオンラインRFLという形で9月21日~22日に行われました。今年のにいがたは新実行委員長・塚野真一の下で元気いっぱいスタートを切る予定でございました。そんな矢先に予期せぬ新型コロナウイルスの蔓延により、開催自体も危ぶまれ完全に出版なをくじかれてしまいました。色々な意見も飛び交いましたが、実行委員会で協議を重ね、「がんサバイバーファースト」の原点に立ち返り、楽しみに待っていただいている皆さまにオンラインという新たな形でお届けすることに決め、頑張ってきました。

コロナ禍で誰もが大変な状況だったにも関わらず、例年通り多くの後援・協賛・協力をいただきましたこと、地方局・地方紙で取り上げていただきましたこと、本当に有り難く感謝申し上げます。

イベント当日はライブ配信や録画配信、ZOOMを活用した参加型コンテンツ等を準備し、オンラインだからこそのトラブルはございましたが、初めての試みとしては上々のスタートが切れたと思います。遠方にお住まいの方や闘病中で病床から参加いただいた方等、通常開催では参加いただけない方にも参加いただけたことは大きな収穫となりました。

来年以降もどうなるかわかりませんが、今年をオンライン元年と捉え、仮にコロナが終息したとしても通常開催との両方で開催できるハイブリッドRFLとして、今後多くの皆さまに楽しくご参加いただけるように努めて参りたいと思えます。

事務局長 本間 雄一



総収入	1,111,064円
実行経費	737,575円
寄付総額	373,489円

## 福井県 福井市

## ふくい実行委員会

## コロナに負けるな

毎年楽しみにしている、ふくい健康の森での「リレー・フォー・ライフ・ジャパンふくい」、今年は新型コロナウイルス感染防止の観点から従来のイベントを中止し、代替えとして、がん診療連携拠点病院を中心とした展示会を開催する運びとなりました。

福井赤十字病院では、職員を中心として知恵を出し合い、創意工夫して、企画・準備・飾りつけをしました。本館正面待合室大ホールでは、イルミネーションを用いたルミナリエを点灯、がんに関するポスターや折鶴・短冊も展示しました。みんなの想いをのせた手形の横断幕は、ホール二階の手すりに広げて、これまでのものを展示しました。入院患者の方や来院された方が、足を止めて熱心に見てくれました。

二人に一人ががんにかかる時代、がんは体験者にしか解らない精神的苦痛があります。リレー・フォー・ライフは、がん患者とその家族を支援し、みんなを勇気づけてくれます。参加することにより、開放的な場所で、他の病院の方と垣根を越えた交流と親睦を深めることができます。童心に返る楽しみもあるし、がんの快気・克服への源にもなっています。

今年はコロナ禍で患者会の会合も一度も開催することができず、例年よりも交流の場が少なくなりました。先の見えない暗いトンネルを早く抜けて、来年は「リレー・フォー・ライフ・ジャパンふくい」や患者会の会合が、従来どおり開催できることを心より願っております。

実行委員 藤田 勲



総収入	138,025円
実行経費	0円
寄付総額	138,025円



## 山梨県 甲府市

## 甲府実行委員会

## 風林火山陰雷の『陰雷の章』

風林火山には『陰雷』という続きがあります。今年は甲府での開催5回目の『陰と雷の章：ひたむきさと衝撃に対する柔軟性』のメッセージを掲げて準備を進めてきました。準備開始時の昨年の秋ごろには世界がコロナ禍になるとは予想もしていませんでした。しかし、このメッセージのようにひたむきに計画し、衝撃に対する柔軟性をもってコロナ禍での開催を迷わず決定しました。実行委員の8割が医療関係者ということで会場である山梨県立大学の許可を得て、当日の運営も医療の知識を基盤にした感染対策を行いました。

会場設営やルミネリエの設置などすべて実行委員のみで行い、当日の状況をオンラインで配信しました。このような取り組みに賛同していただけたアーティストの方々が会場の雰囲気盛り上げてくださりました。3密を避けるために入れ替わり制を導入し、開会式、ウォーク、ルミネリエ、閉会式のセレモニーを着実にやり、参加人数は全員で80名でした。

例年、陰の力として振舞っている実行委員ですが、今年は自分たちで準備したものを自分たちで楽しむことができ、和やかな時間を共有できました。

イベントが開催できたことは多くの皆様の協力と思いがあったことだと改めて、感謝いたします。また、オンライン寄附をして下さった方にも感謝いたします。

2021年は第2巻「風林火山陰雷」の始まりです。今から楽しみです。

実行委員長 前澤 美代子



総収入	481,469円
実行経費	67,391円
寄付総額	414,078円

## 長野県 松本市

## 信州まつもと実行委員会

## 大切なこと。それは、活動の継続。

今年の活動で最も反省しなければならないことは、終始新型コロナウイルスに翻弄されてしまったことです。4月中旬に全国を対象にした緊急事態宣言が発令されるほどの先の見えない状況になったことで、イベントに向けての全ての行動にストップをかけてしまいました。その後、一旦は収束してきたものの再燃の兆しがあったため、6月中頃に今年のリレーイベントの中止を決定するとともに、代替イベント開催に向けての準備に取り掛かりました。この準備期間中も、新型コロナウイルスの影響もあり、多くの方々にご心配やご迷惑をお掛けしてしまいました。しかし、結果として多くの方々のご協力により、10月24日(土)10:00~19:00の9時間にわたってイオンモール松本店において盛大かつ無事にイベントを開催することができました。

また、今年は日々の活動の大切さを再認識させられた年になりました。毎月店頭に立った「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」からは106,300円分のギフトカードを贈呈され、街中の募金箱設置協力店様からも多くの募金をお預かりすることができました。活動の継続は、とても尊いことであり、応援してくださる方々の思いを強く感じました。

来年は、より日々の活動に重点を置きながら、今年の実績を生かし活動します。2021年9月4日(土)、晴天に恵まれた青空のもと、信州まつもとの会場で皆様とお会いできることを楽しみにしています。

顧問 大月 典幸



総収入	75,957円
実行経費	18,135円
寄付総額	57,822円

## 長野県 長野市

## 信州長野実行委員会

## 想いでつないだコロナ禍での開催

今回9回目の開催となるRFLJ2020信州長野は長野圏域の新型コロナウイルス感染拡大に伴い毎年4月には実行委員会を開き会議を重ね準備をしているのですが、今年は実行委員のメンバーの多数が病院関係者のため、集まれず、人や寄付などの支援も難しく、中止する事を検討していました。

しかし、毎年継続して行い認知度も参加して下さる人も増えて、現在治療を頑張っているガン患者さんが年に一度、仲間と会って励まし喜ぶ機会がなくなるのはやはり残念だと言う意見が多く、人を集めない、経費をかけない、短時間で企業などの寄付も強制しないということで行いました。

今回は新しい長野駅前の公園で、しかも実行委員会メンバーの長野朝日放送の協力もあり、当日その場に居なくてもホームページや番組など、間接的に参加してもらい、参加者には万全の体制で無事に終わりました。私は駅前のビルや都会的な夜景と紫色の人々の風景が心に残りました。医療関係者に感謝をしながら自分もできる事をして、次の10回を楽しみにしたいです。

実行委員長 筒井 春代



総収入	268,718円
実行経費	100,880円
寄付総額	167,838円

## 岐阜県 岐阜市

## 岐阜実行委員会

## 今年も歩いて良かった！

昨年に引き続き岐阜大学医学部附属病院でリレーウォークイベントの日程を決定した途端コロナ騒動が始まりました。

第1回キックオフともなる実行委員会は出鼻を挫かれる会議となりました。会場開催は中止と苦渋の決断をしたもののこんな時だからこそ、何かできないかと思いついたのがサバイバーさんへの熱い想いを伝えるべくバーチャルイベントを企画しました。10月10日から16日までの1週間毎日テーマを変えて多彩な映像を繋いで番組を制作してYouTubeで公開しました。

笑いあり涙ありの番組をお届けしました。番組の中で愛知県立木曽川高校ブラスバンド部の日替わりテーマに合わせた演奏ではがんと向き合い、がん患者さんやそのご家族を支援できたのではないかと考えています。

屋外ロケも楽しい思い出となりました。公開を終えて、ふと思いがよぎったのは何のため？誰のため？という気持ちでした。一方通行の放映で実行委員会の自己満足で終わっているのではないかと？ 何か足りない、そんな気持ちから生まれた、木曽川高校ブラスバンド部とのジョイントイベント【ハートフルステージ】体育館で密にならないイベントでは実際に歩き、語り合い、演奏に耳を傾ける。やはりLIVEはいいですね。

サバイバーさんからの声が聞こえました。「あー、今年も歩いて良かったー！」この一言に救われ、涙が止まりませんでした。

実行委員長 吉田 正樹



総収入	205,164円
実行経費	88,080円
寄付総額	117,084円

## 岐阜県 恵那市

## 東美濃実行委員会

## 「リレー・フォー・ライフ東美濃への想い」

今まで全国各地で開催されるRFLに参加し、多くの仲間と想いを共有していく毎に生きる力をいただきました。いつの日か地元でRFLを開催したいという長年の夢がありました。

2020年、ついに夢のスタートラインに立つことができました。

きっかけは、がん哲学外来メディカルカフェ「ぬくたあカフェ」を地元の瑞浪市にて毎月1回開催しており、ここに来られるサバイバーの方々、医療従事者の方々の協力を得て、念願であったリレー・フォー・ライフ・ジャパン東美濃実行委員会が設立されました。

今回は恵那市長にご理解をいただき、行政の皆様のご協力のもと、市内の河川公園で開催できる運びとなりました。実行委員会のメンバーも増え、準備が進んでいる最中、コロナウイルスがいよいよ県内地域にも拡がり、苦渋の決断をせざるを得ませんでした。

しかしながら、RFL開催の活動を通してスタートラインに立てたことにより、実現できたことがあります。それは、この地域にがんを負けない心と社会をつくってける仲間とプラットフォームができたということです。

共に語り合い、共に生きていけるのだと想いを共有できたらどんなに素晴らしいことでしょうか。「心温めよう がんと生きるために」これが東美濃テーマです。今後もリレー・フォー・ライフ活動を継続させ、少しでもがん患者、そのご家族支援の輪が広がりますことを心より願っております。

## 実行委員長 西尾 守



総収入	217,130円
実行経費	43,999円
寄付総額	173,131円

## 静岡県 静岡市

## 静岡実行委員会

## 「地域と共に再び芝生園地で!!」

2019年9月21日22日開催のRFLJ2019静岡は、雨予報により2年連続室内開催を余儀なくされました。しかし、チャリティー映画上映会やサバイバーズトークなど新たな試みにチャレンジし、参加された多くのみなさまと想いを共有することができました。

閉会式では、学生チームのリーダーの手によって掲げられた【RFLJ静岡20209月19日20日開催決定】のメッセージパネルと共に閉幕し、2020年開催へ向けて新規実行委員メンバーを迎えスタートを切りました。

しかしながら、その後は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い『RFLJ2020静岡』のイベントは中止することになりました。

そのような中、静岡実行委員会では2021年の継続開催を目指して、募金箱を置いていただいているみなさまに募金の呼びかけなど、できることで活動を続けています。

毎月開催していた定例会もZOOMを使用した形式で再開しました。

「2021年は再び芝生園地で」と応援もいただいています。みなさまの期待へ応えられるよう静岡実行委員会一丸となり、開催実現に取り組んでまいります。

最後に、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、医療従事者をはじめ、感染防止に日々ご尽力されているみなさまに深く感謝申し上げます。

## 副実行委員長 村田 貴彦



総収入	282,664円
実行経費	258,625円
寄付総額	24,039円

## 静岡県 長泉町

## ながいずみ実行委員会

## 「苦渋と安堵の「開催せず」

今年は、各地の実行委員会がイベント開催を中止する中、私達も苦渋の決断と成りました。

でも、正直ホッとしていたのも事実でした。ながいずみは今年、開催10周年となる記念の年でした。しかし、1月の第1回目の定例会で早速議題に上がり、その時にはまだ迷いも有りましたが、2回目の定例会では開催中止との早めの決断を下しました。「ちょっと早いのでは?」と思いましたが、全国から届くRFL以外のイベントの多くの中止や延期の情報を目にし、それと照らし合わせると、もし開催するとすれば、その対応への負担は様々な面から、相当大変になると感じたからです。

今では決断は正解だと思っています。

1年を通しての活動も、毎年参加していた近隣市町の福祉まつりも1度しか開催がなく、今年はそのみの出店参加、専門学校での講演会のみでしたが、何よりそれぞれの生活を最優先してもらいたいという気持ちが強く有りました。でもRFLJから送られてくる情報、SNSから知る情報で、多くの関係者、仲間達が素晴らしいアクションを起こしている事に、感動すると共に、自ら選んだ事とは言え、正直、悔しさを感じていました。とは言え、今、最優先すべきはそれぞれの生活。それが成立してのりレー・フォー・ライフだと思っています。

でも、何もしないわけでは有りません。新しい形で動き出せるその日まで、私達らしく、活動していこうと思います。また皆さんと会える日を楽しみにしつつ…。

## 実行委員長 高橋 裕一郎



総収入	91,223円
実行経費	66,441円
寄付総額	24,782円

## 愛知県 岡崎市

## 岡崎実行委員会

## 「出逢いそして絆」

残念ながら2020年度は未開催となりましたが、岡崎が10年間守り続けてきたキャッチフレーズ「出逢いそして絆～笑顔に感謝～歩こまい!しゃべろまい!明日に向かって!!」心と体の健康があってこそそのRFLです。

主催者側も参加者側も、全てが安全で安心な環境になり、再び呼びかけることができる時が来ることを祈って…

## 実行委員長 阿部 年恭



総収入	0円
実行経費	0円
寄付総額	0円

## 愛知県 豊川市

## 東三河実行委員会

## 「One Hope Night」に参加して

昨年、私はサバイバーの息子と東三河のリレー・フォー・ライフに参加させていただきましたが、2020年2月に彼は残念ながら他界しました。彼は生前、リレー・フォー・ライフへの参加を通じて、子どもや若い世代の方にガン患者とのかかわり方などを伝えていきたいと申し出ておりました。

しかし、コロナ禍で今年はイベント中止となり、とても残念に思っていたところ、ZOOM開催の記事を見つけ、「これだ！」と飛びつきました。

友人など50名余の方に賛同していただき、彼の好きだったお魚の素敵なルミナリエを夜空に送ることができました。暑期中、企画・設営に協力してくれた友人に感謝です。

もちろん、きれいに彩られたルミナリエに感動しましたが、それ以外に、こころ温まる出来事がありました。

メッセージを書いていただくようお願いした知人から、亡くなった夫のために、同じ時間に自宅で灯してあげたいと申し出がありました。私は豊川で、その方は東京で。同じ思いで空を見上げているのかなあ、なんて思うと、とてもうれしかったです。

これから、もっと輪を広げていきたいと思いました。みなさん、ありがとう。

## 実行委員 近田 真弓



総収入	89,000円
実行経費	50,880円
寄付総額	38,120円

## 滋賀県 大津市

## 滋賀医科大学実行委員会

## 完全オンラインでの24時間開催

滋賀医科大学でリレー・フォー・ライフを開催するようになり、今年で5年目となります。昨年は台風の接近に伴い中止、今年はオンラインとなりましたが、2年ぶりにリレー・フォー・ライフを開催することができました。先が読めない中で手探りで準備となりましたが、何とか24時間夜通しの配信をすることができてとても嬉しく思います。

RFLの意義や目的から改めて問い直した1年でした。今年のような状況の中で自分たちにできることは何か？リレーに何を求め、何を期待しているのか？周りの多くの方と一緒に思い悩み、考えを深められた年となりました。

このイベントの開催に当たり、本当にたくさんの方々のご協力をいただきました。数えきれないほどの温かいご支援の上に、RFLJ2020滋賀医大の24時間は成り立ちました。学生のみでの開催で至らぬ点多々あったかと思いますが、こうした場を準備することができたことを心より感謝しております。

24時間の配信を行う中で「地域全体でがんと向き合う」という意味を改めて感じることができました。ご協力いただいた皆様に教えていただいた通り、滋賀県にはがん患者さんやその支援者の方を支える多くのつながりがあります。自分の地域には頼れる場所があり、決して一人ではないということを感じていただければ幸いです。

来年こそ皆様と会場でお会いできることを願っております。今後ともよろしく願いたします！

## 実行委員長 大胡 滴



総収入	605,591円
実行経費	367,273円
寄付総額	238,318円

## 三重県 松阪市

## 三重実行委員会

## リレーフォーライフジャパン三重活動報告

本年度三重県では開催を見送りました。実行委員は私ともう1人を除いてサバイバーです。何かがあってからでは遅すぎるので中止の決断は悩む事は無かったです。しかし、長年開催されている実行委員会ではweb開催や小規模でも開催されているのを見ると続けて開催していく蓄積されたノウハウと言うのは強いなあと感じました。

ただ、私達も中止すると決めましたがその間にも動きかけはしておりました。

イオングループのイエローシートキャンペーンを導入しました。地元の方にリレーフォーライフの活動を知ってもらえる機会にもなるかと思えます。

また、SNSでは新たにInstagramを活用して三重の良いところを紹介してリアルと一緒に歩かせませんが、気持ちと一緒に歩いてもらおうも思えます。Facebookにも同時に上げております。

その他はweb会議を行って新たにこのコロナ禍でも出来る事、また来年度にしていきたい事を話っております。

来年度の開催が決定致しました。6月12日土曜日&13日日曜日です。

今年度開催を見送った事で他実行委員会のいろんな開催方法を勉強させて頂いてタチが変わっても開催に向かって前進していこうと思えます。

## 事務局長 山原 英子



総収入	58,517円
実行経費	58,517円
寄付総額	0円

## 京都府 京都市

## 京都実行委員会

## 離れていてもつながる思い

京都で10年目を迎えました。今年は新型コロナウイルスの影響で、会場に集まったイベントができないなか、オンラインでの交流イベントを実施いたしました。ルミナリエセレモニーは、毎年会場としてお借りしている京都薬科大学の中央庭園で動画の撮影をして、当日はそれをみなさんに視聴してもらいました。黙とうを行い、詩の朗読の動画を見てもらいました。参加者の方からは動画であっても、オンラインであっても、みんなこの時間を共有できたことが良かったという嬉しい感想を頂きました。そしてその後時間をいくつか区切って、語り場のコーナーを設け、少人数ごとに特にテーマも決めずゆるーくトークをして頂きました。最後の時間は自然と部屋を分けることなく参加者全員で語りを行う雰囲気になり、みなさんの思いを共有できる時間になりました。去年参加して頂いたサバイバーさんからは京都のイベントはゆるーい雰囲気で居心地がよいという感想を聞くことができ、とてもうれしくまたこれからも頑張っていこうと思えました。今年はみなさんと集まっていた夜越えイベントはできませんでしたが、オンラインはオンラインの良さがあると思えるイベントができました。また今後もオンラインも活用して本イベントを盛り上げる可能性も感じました。これからも京都の雰囲気を大事にして一人でも多くの方が生きる喜びを感じられる活動をしていきたいと思えます。

## 実行委員長 若林 亮介



総収入	218,223円
実行経費	94,559円
寄付総額	123,664円

## 大阪府 大阪市

## オンラインでつながる新しいリレーのかたち

大阪城天守閣を紫にライトアップすることを例年行っていますが、昨年、偶然にも私達と直接交流の無いサバイバーさんから「毎年楽しみにしている」といったメッセージを頂きました。誰かが待っている！寄り添おう！と思いを新たにしました。出来事でした。ゆえに、特に今年は、どのような状況であっても「絶対に開催する」と強い決意で臨みました。

オンラインと会場とのハイブリッドでの開催はもちろん初めての取り組みでしたが、リレーの新しい可能性を感じた経験でした。

会場、オンライン、録画などのコンテンツによってハイブリッドならではのプログラムを構成することが出来ました。会場からの中継で特筆すべきはルミナリエバッグをひとつひとつ丁寧にご紹介させていただけたことです。

そして、オンラインでもっともその価値が発揮できたのはアメリカ、リレー発祥の地タコマの実行委員でリレーの母パット・フリンさんのご子息マーク・フリンさんと短い時間でしたがトーク・セッションできたことでした。その中でマークさんは「開催することも大切だけど寄り添うことが大切」といった言葉があり、ここでも寄り添うことが原点であると気持ちを新たにしました。世界と繋がる可能性を感じたセッションでした。

2021のリレーはこの経験を十分に生かしてより多くのサバイバー・ケアギバーの方々に寄り添い、大阪あさひが目指す「世界一優しい」リレーを開催したいと思います。

## 大阪あさひ実行委員会

実行委員長 寺前 靖隆



総収入	300,695円
実行経費	73,678円
寄付総額	227,017円

## 兵庫県 芦屋市

## ～この場所は…いつもあなたとともにある～ 実行委員長 着能”きらきら”敬子

皆さまのご支援、ご協力をおもちまして、9月5日&6日、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020芦屋を開催することができました。

新型コロナウイルスの影響がある、この社会状況の中での開催ということで、開催を検討する中で、私たちは、たくさん悩みました。でも、この場所を大切にしたいという思いから、試行錯誤しながら形にしていきました。新しいチャレンジとなり不安もありましたが、皆さまからの温かいお言葉、ご支援ご協力に励まされ、開催することができました。

入場制限させていただき来場いただき、また会場の模様と企画したプログラムをオンラインで配信させていただくということで、多くの方々にご来場いただくということは叶いませんでしたが、たくさんの方に視聴いただき、皆さまとの繋がりをしっかりと感じる事ができました。

一方、初めての試みを行う中で不具合もたくさんあり、皆さまにはご心配ご迷惑をおかけしましたことをこの場を借りて、お詫び申し上げます。

皆さまが温かく見守っていただいたお陰で、例年と変わりなく、一緒に朝を迎えられことを大変嬉しく思っております。

## 関西(芦屋)実行委員会



総収入	2,123,920円
実行経費	1,189,810円
寄付総額	934,110円

## 大阪府 貝塚市

## 可能性が広がったオンライン開催

毎年、二色の浜の市民の森・シェルシアターという最高の会場で笑顔をつなぎ、それが当たり前と思い活動し計画をしてきました。今年は、初めてチャリティランの準備を進めている最中に、会場での開催を断念する事となりました。どうするか。

インターネット配信という方法。やるなら24時間したい。ステージの代わりに、動画を募る？募金箱協力店やチームからメッセージをもらうのは？そして、HOPEを出現させたいとの願いは、市立貝塚病院の協力で駐車場で実現。入院患者さんにも病室から見てもらい、動画にも収めました。また、会場にのぼりを立て写真や動画に収め夕景も撮影しました。配信方法はYouTubeで24時間生配信。そこに動画をはさむというもの。ぎりぎりまで準備は続きました。開会式は生配信でその後動画を流しました。医療講演はzoomを使用しその様子をYouTubeでも生配信。

その後は、亡くなられた方々の思い出のブース【コスモスの部屋】とエンブティーターブルセレモニーを生配信。ハロウィン仮装やお喋りをしながら夜中も2日目も実行委員が入り替わりながら配信は続き、閉会式。未知の状態からのインターネット配信。

どのくらい、チャリティイベントとしての意義が全うできたのか、手ごたえはよく解りませんが、開催できた事に意義があったのではないかと実行委員一同思っています。そして、来年開催にこの経験が役立つ事と思えます。

## 泉州実行委員会

事務局 元場 均実



総収入	551,354円
実行経費	394,678円
寄付総額	156,676円

## 兵庫県 神戸市

## 「次世代への挑戦」

RFLはチームの仲間と夜通し歩くりレーイベントですが、神戸ではリレーウォークはもとより、12時間走り続けるキャンドルラン、夜通しライブが行われるミュージックパトなど、神戸ならではの「命のリレー」を行っています。会場の「震災記念公園みなとのもり公園」に置かれたルミナリエとルミナリエで作る「HOPE」には、阪神淡路大震災以降灯り続ける「希望の灯り」を分灯し、日没時に鳴らす鐘の音と共に参加者全員の手で点灯されます。震災後「絆」大切にしてきた神戸のルミナリエには、サバイバーや支援者の想いと共に、震災で亡くなられた多くの方の思いも込められているのです。また、旅立たれた方の写真や思い出の品をならべる「あじさいテント」では、「共にここにいる」と想いを寄せる場となっています。

7回目を迎えた2020年は新型コロナウイルスの影響を考慮し、会場での様々なイベントも中止し来場者の人数も減ってしまいましたが、代わりに初の試みとしてオンライン配信を行いました。初の試みということもあり中継途切れる等配信トラブルもありましたが、新しい形を作り上げることが出来たのは進歩だと感じております。次回はオンライン配信の改善を行い、会場に来られない方でもより臨場感を感じられるようなRFL神戸を感じてもらえるようにしたいと思います。最後になりましたが、RFL神戸2020にご協力頂き、ご支援頂いた多くの皆さまに心より御礼申し上げます。

## 神戸実行委員会

事務局 安井 隆浩



総収入	1,399,571円
実行経費	1,387,111円
寄付総額	12,460円

## 奈良県 天理市

## 奈良実行委員会

## リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020奈良

2020年初めには考えもしていなかった新型コロナウイルス拡大防止のため、2020年の奈良のリレーイベントは、中止となってしまいました。奈良では過去7回開催しており、今年も開催を楽しみにして下さっていた方もいましたが、実行委員会で検討した結果、参加者の皆様の安全を最優先して苦渋の判断となりました。

しかし、若い人にもRFLの活動を知ってもらおう機会を持ち、新たに一緒に活動して頂ける方を得るなど、今後に繋げる活動がじっくりできました。がんは誰でもいつでも当事者になる可能性があります。そのような考えで、自分ごとに捉えてくれる仲間ができた嬉しいこともありました。新型コロナウイルスが収束すれば、今まで以上にパワーアップした活動ができるものと確信致しました。また、他地区の活動にも目を向けることができました。特に、オンラインを利用し、工夫されている新たな活動は、来年以降の奈良での活動に積極的に取り入れていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染拡大は残念ながら、がんの検診や治療に少なからず負の影響を与えました。非常に心が痛みました。そのような状況に負けない明るく皆が希望を持てる社会を築くためには、RFLの活動を広げながら継続していくことが本当に大切であると再認識した一年でした。2021年には、みなさまと笑顔でお会いできますことを楽しみにしています。引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

実行委員長 小笹 晃子



総収入	48,000円
実行経費	48,000円
寄付総額	0円

## 鳥取県 境港市

## とっとり実行委員会

## 「～伝えようつなげよう未来のために～」

2020年9月26～27日 山陰初開催のリレー・フォー・ライフ・ジャパンが、秋晴れの中、日本海と大山（だいせん）を望む「自然豊かな鳥取」の境港市 夢みなと公園で開催されました。…と報告する予定でした。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の影響でサバイバー、ケアギバーの方、ボランティアスタッフを含めた参加者全員の安全を第一に考慮した結果としてリレーイベントを含め多くのイベントが中止となりました。また、実行委員会も2回目以降、書面報告・決議となり意見交換の場さえ設けることができない状況に、もどかしく思うとともに、次年度以降の開催についても不安が募る一方でした。

このような状況の中、啓発活動として実行委員を含む多くのボランティアメンバーが各チームに分かれ、キャラクター作成、チラシ作成、エコバック・タオルマフラー・ポロシャツなどグッズデザイン作成、各種イベント・ブース準備等に参加していただきました。サバイバー、ケアギバーの方たちに何か出来ないか、何かしたいとの気持ちが、一つになった瞬間でした。必要な力であり、大切な気持ちであり、続けたい思いです。ご参加・ご協力いただきました皆様、一年間ありがとうございました。

今後も、みんなで安全で、共感できることを考え挑戦していきましょう。

副実行委員長 丸瀬 和美



総収入	575,700円
実行経費	56,490円
寄付総額	519,210円

## 和歌山県 和歌山市

## わかやま実行委員会

## 『～感謝～次年度に向けて再出発』

皆さま、こんにちは。

今年も大変お世話になり、誠にありがとうございました。皆さまのご尽力に重ねて感謝申し上げます。しかしながら、今年は感染症が蔓延したために、5月に予定していた和歌山城公園砂ノ丸広場での開催が中止となりました。また、代替えでイベントを縮小して行う予定だったWEB開催も、2度の延期とも天候不順に見舞われ開催が叶いませんでした。

残念ながら、リレー・フォー・ライフ・ジャパンわかやま2020は、不完全燃焼での閉幕となってしまいました。実行委員一同、来年のリレー・フォー・ライフに向け走り出す予定でございます。また来年も皆さまにお力添えいただけますよう、宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

実行委員長 樋上 やよい



総収入	243,145円
実行経費	184,647円
寄付総額	58,498円

## 広島県 尾道市

## 広島実行委員会

## がんになっても自分らしく生きてゆこう！

RFLJ広島2020は、おかげさまで無事に終了致しました。RFLJ広島2020が無事に開催できたのは、実行委員と支えてくださった方々のおかげです。総勢30名近くの実行委員で、月1回実行委員会を重ねこのRFLJ広島を支えてきました。閉会式をみんなと一緒に迎えることが出来たことは何にも代えがたい皆さんとの絆があったからだと思います。コロナ禍、しなくてもいい苦勞をしてきました。それを乗り越えて新しい時代に向けて私たちは歩みを止めずに、がんにもコロナにも負けずに支えあって生きていけたらと思います。RFLを通じて得た友情や絆が皆にとってかけがえのないものだと思っています。来年またRFLが開催できるか今の状況では分かりません。

2009年から毎年続けてきたRFLJ広島を皆で頑張ってWeb開催でできたことは本当に私たちの誇りでもあるし、財産でもあります。Web開催をすることによって、今まで会場に足を運ぶことができなかった方、全国のRFLの仲間、全国のがん患者さんにご家族に届けることができたのは、本当に有難く嬉しいことだと思います。皆さん共に頑張ってこれからの時代を生きていきましょう。私たちのテーマ「がんになっても自分らしく生きていこう。『Shake Hands~One team One heart~』を胸にこれからも頑張っていきましょう。実行委員の皆さん、今日この進行を支えてくださったスタッフの皆さん、Web配信を見た皆さんに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。（2020年9月19日・20日開催）

実行委員長 浜中 和子



総収入	1,718,216円
実行経費	1,048,140円
寄付総額	670,076円

## 山口県 周南市

## 再び集える日を願って、今踏み出そう

2020年は、地球上の誰もが想像もしていなかった一年になりました。自粛、ステイホーム、密を避ける。そして、自分自身の生き方を見つめ直さなければいけない孤独。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020やまぐち」も、残念ながらイベント中止となってしまいました。

がんという病と共存しながら生き続けている私たちにとって、RFLは仲間と強い絆を確認するイベントです。しかし、がんに対抗していく力を私たちは知っていても、新型コロナは未知の病。中止は苦渋の選択でした。

でも、私たちには、未来があります。コロナ禍が終息したら、またRFLのイベントをきつと行えます。そして、RFLは年間を通してのイベントであることを再認識するとともに、ひとりひとりの日々の中で、それぞれのRFL活動を行うことが可能なはず。こんな時節の中でも、想い描くことはできます。再び集えるRFLをどう変化させていきたいか、未来へ向けて想いをつないでいきましょう。

コロナ禍の孤独はあっても、私たちは、一人ではないのだから。

## やまぐち実行委員会

事務局長 田部 一則



総収入	209,048円
実行経費	77,566円
寄付総額	131,482円

## 香川県 高松市

## 「RFLの活動目的を再確認した一年」

今年度は、2年続けて台風到来により短縮しての開催となったため、台風シーズンを避けて開催を5月に変更し準備しておりました。残念ながら、新型コロナウイルスの影響で、やむを得ず中止せざるを得なくなりました。かがわ高松の活動としては、5月リレーイベント開催予定だったため、開催前月4月に高松の市民活動センターにおいて、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020かがわ高松」の写真展を2カ月に渡り開催いたしました。リレーイベントは中止となりましたが、これまでのリレーイベントの様子を写真で見てもらい良い機会となりました。この写真展では、NHK高松放送局「ゆう6かがわ」のTV取材と、読売新聞、四国新聞も記事にして頂き、活動を一人でも多くの方に知ってもらうことができましたと思います。8月3日のオンラインルミナリエイベントでは、実行委員会の妙泉寺さんの本堂にて、ルミナリエを点灯し、実行委員会のメンバー、賛同いただいている方々とソーシャルディスタンスを取りつつも気持ちをひとつにいたしました。リレーイベントだけが、RFLではない、そもその目的を再度確認し、他にできることはないかと考える一年となりました。来年こそは開催できることを祈念して準備していきたいと思えます。

## かがわ高松実行委員会

実行委員長 十川 美加



総収入	601,258円
実行経費	214,629円
寄付総額	386,629円

## 徳島県 徳島市

## 灯した明かりを消さないように

新年度早々に徳島でも新型コロナウイルス感染症の不安が色濃くなり、私たちはリレーとくしま開催へ向けて何も見通しが持てない状況になっていきました。実行委員会を行うこともためらわれ、次第に諦める気持ちの方が強くなっていると感じていました。そんな頃、ONE HOPE NIGHTが開催され、そこで全国の実行委員会の皆さんがこの事態に戸惑いながらも希望の灯りを絶やさない方法を探し続けていると知りました。直後にはこれまで参加してくださっているサバイバーの方々や支援者の方から「できることを一緒に考えよう」という言葉や「灯した明かりを消さないで」という声が届き 私たちは、あらためてたくさんの方の思いで形作られているリレーをこれまでと同じようにはいかなくとも繋いでいく術はないかと手探りの日々へ踏み出しました。直接お会いできないもどかしさを抱えながら、サバイバー、医療者、研究者の方々にご協力頂き、事前にインタビュー動画を公開することや短い時間のエンピティセレモニーを中継するという計画を立てました。このような状況でも賛同してくださる支援者の方々の存在は心強い大きな存在でした。開催中に「参加してるよ」という声や「また来年も会いましょう」というメッセージをたくさんいただきました。

みんなで長い夜をともに過ごしていたのだと感じています。

来年は近い距離で新しい出逢いや再会が出来ることを今から祈りたいと思えます。

## とくしま実行委員会

実行委員長 香留 美菜



総収入	328,948円
実行経費	257,326円
寄付総額	71,622円

## 愛媛県 松山市

## リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020えひめ

2020年10月3日(土)・4日(日)の両日に開催を予定しておりましたが、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020えひめは、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、毎年、このリレーにご参加くださっておりますサバイバー、ケアギバーの皆さま、ご支援・ご協力を賜っております企業、関係者の皆さまには大変申し訳なかったのですが、やむを得ず中止とさせていただきます。

今後は、来年の開催に向けて準備を進めることとしておりますので、宜しくお願い申し上げます。

## えひめ実行委員会

事務局長 藤田 秀宣



総収入	176,003円
実行経費	175,003円
寄付総額	1,000円

## 高知県 高知市

## 高知実行委員会

## RFLJ2020高知から「みんなあ～でささえ愛」

RFLJ高知は13回目となる今年、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。代替として10月24日に高知学園大学・短期大学を会場に、ルミネリエセレモニーを実施。参加者を募らず、実行委員は最少人数でWeb配信を行い、238個のルミネリエバッグに明かりを灯し、大切なエンブレップルを中心に小さくまとめた2時間でした。会場に集うことは出来ませんでした、「苦しんできたけれど、リレーフォーライフに参加した事がきっかけで、気持ちが楽になった」「多くの人との温かい交流を思い出し涙がこぼれた」など、参加を楽しみにしてくれていたサバイバーさんや、ご家族からのメッセージも届きました。

準備から終了後の片付けに至るまで、高知学園大学・短期大学の教職員、学生の皆様が引き受けて下さり無事終了する事が出来ました。

この日の様子をダイジェスト版でYouTubeに投稿しています。ぜひ、ご覧になってください。

また、リレーは中止になっても、リレーフォーライフは1年を通じて取り組むチャリティー活動です。がん征圧のための寄付金を募り、RFLJ公式グッズ、チャリティーTシャツのご案内をした所、300人を超える申し込みに、「みんなあ～でささえ愛」を実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。

企業・団体の皆様からは、コロナ禍で厳しい状況が続く中、今年も協賛のご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

全ての皆様本当にありがとうございました。

## 実行委員 山下 みち



総収入	1,438,594円
実行経費	495,884円
寄付総額	942,710円

## 佐賀県 佐賀市

## 佐賀実行委員会

## コロナ禍のなかでの短縮開催

コロナ禍の中で中止せざるを得なくなり、摺り上げたチラシも無駄になってしまいました。しかし、実行委員会の中から24時間は無理でも、1時間でもいいから何かをやりたいという声が上がってきました。

佐賀のRFLは、第1回大会から佐賀県健康づくり財団が主催する「がん征圧県民のつどい」とタイアップした開催を続けてきました。その「県民のつどい」もまたコロナ禍の中で縮小した形での開催を余儀なくされていました。また、今年度から事務局を佐賀県健康づくり財団に移行したこともあり、「県民のつどい」と「RFL」を合同開催してはどうだろうかということになりました。

結果として、「2020がん征圧県民のつどい」第2部「がん征圧with RFL佐賀（幸せのメッセージ）～忘れないでがん検診、がん予防～」という形を取って、9月19日土曜日に開催する運びとなりました。

2部の開始に先立って、実行委員長木原慶吾さんに対して、全米対がん協会から「グローバル・ヒーローズ・オブ・ホープ」を受賞されたことの紹介と合わせて、「佐賀さいこう表彰（がん対策部門）」が、佐賀県知事から授与されました。

概ね1時間の開催の中では、木原委員長が歌う佐賀大会のテーマソングに合わせて背景にこれまで5回行われた大会の写真を紹介しました。引き続き4名の方による「サバイバーストーク」と参加者全員による「ルミネリエウォーク」で、今年の大会は終了しました。

## 会計監査 福島 龍一



総収入	680,838円
実行経費	270,075円
寄付総額	410,763円

## 福岡県 福岡市

## 福岡実行委員会

## 新型コロナと台風で翻弄された今回の大会！

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン福岡」は、毎年「海の中道海浜公園・光と風の広場」で開催しております。

毎回たくさんの参加者が集い、タスキをつなげながら希望や勇気を生み出し、検診車やパネル展示、講演会など、がん撲滅のための啓発活動の重要性も訴えています。

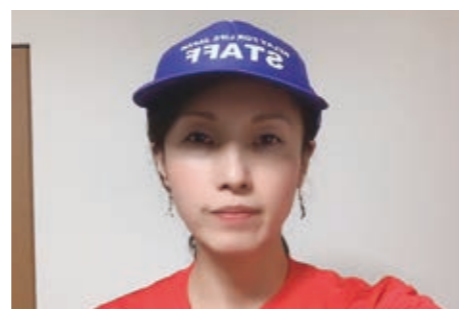
しかし、今年は従来の会場である「海の中道海浜公園・光と風の広場」が全面改装のため使用できなくなり、別の会場を検討しておりました。そこに、新型コロナウイルス感染拡大の報道。これらの影響により開催に向けての準備が出来なくなり、9月に開催予定していた「第12回 リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020福岡」は中止とさせて頂きました。

がん征圧を呼びかけるため、ルミネリエセレモニーだけでも開催出来ないかと企画しましたが、当日に九州台風上陸したため、開催を断念せざるを得ませんでした。

今年は、本当に特別な年となりました。ただ、来年に向けてホームページをリニューアルしたりと歩みを続けて、がん征圧を呼びかけています。

これからもなお一層、がん患者支援・がん啓発に取り組み、がんに対する不安のない社会の実現に繋がるよう活動を続けたいと思います。

## 実行委員長 花村 茜



総収入	130,722円
実行経費	130,722円
寄付総額	0円

## 熊本県 熊本市

## くまもと実行委員会

## 十周年

本年はリレーフォーライフジャパンくまもとにとって10年目の区切りの年でもあり盛り上がりのあるイベントを執り行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い参加の皆様の安全を第一に考え残念ながら開催を中止させて頂きました。せめて当日にルミネリエの点灯と実行委員会のメンバーのみでのウォークを行おうと思っておりましたが、残念ながら会場自体を借りることが出来ず行うことが出来ず本当に残念でなりません。ですがイベントが中止となり活動も自粛せざるを得ない状況にもかかわらず多くの方々からたくさんの募金をいただき本当にありがたく感謝でいっぱいです。

イベントは中止となってしまいうろんな活動もなかなかできませんが、今、このときでもがんという病は休んでくれません。それ以上に人と人のコミュニケーションは少なくなり不安に思っておられる方も多くおられると思います。

そのことを忘れずいろんな角度からできることを考えまた来年に向け今年以上に活動を行っていきたく強く思います。

また来年は会場とインターネットの両方を使いより多くの・会場に来場できない方々へ発信、活動出来るように動き準備していきたく思っておりますのでどうぞ協力よろしくお願い致します。

## 実行委員長 吉川 俊治



総収入	384,551円
実行経費	159,873円
寄付総額	224,678円

## 大分県 大分市

## 大分実行委員会

## 13年目の新たな挑戦

13年目を迎えた大分実行委員会ですが、多くの実行委員会と同じくコロナ禍の中で開催はできないと判断し、会場に大勢が集まるリレーウォークは中止といたしました。昨年も荒天により開催できなかったため非常に辛い選択でしたが、このような状況下だからこそ何かできることはないかと実行委員会で協議を重ねてきました。

今年は集まることが出来ないためサバイバーの皆様にご自身の手形を描いたものを送っていただきサバイバーフラッグを作成しました。そして、そのフラッグを大会会場に掲げ実行委員のみのウォーク・エンブティーテーブルを行い、会場に来られない皆様へ配信致しました。

また、セルフウォークリレーの参加も大きな挑戦でした。概要を実行委員・チーム・参加される皆様へお伝えするにはとても短い期間でしたが、チームキャプテンのご尽力により、とても多くの方に参加していただきました。皆様のリレーへの強い思いと、この思いに応える実行委員会の責任の大きさを改めて感じました。

このような状況で頂きました温かい声援・ご支援は実行委員会にとっても大きな力となりました。改めて御礼を申し上げます。そして、いつか会場で会えるその日が来るまで『ONE WORLD・ONE HOPE』そして『会えなくても繋がっている』気持ちを大切に、リレーの火を絶やさないようコロナ禍でもできることを来年へ向けて続けていきたいと思えます。

## 実行委員長 清原 裕之



総収入	2,326,528円
実行経費	222,132円
寄付総額	2,104,396円

## 大分県 中津市

## 中津実行委員会

## 二度の中止にもめげず、出来ることを

昨年の初開催に続き、2年目も頑張ろうと思っていた矢先、コロナ禍により5月15日に予定していたリレーは中止を余儀なくされました。秋口にはおさまるであろうと期待していましたが、代替日の9月5日のスタートも叶いませんでした。実行委員のほぼすべてが医療関係者という中津実行委員会の状況から、その後も、実行委員会を開くことさえままならない状態が続きました。

そんな中、入院中のサバイバーさんに喜んでいただきたいと以前から構想していた病院内でのルミナリエ展示にこぎつけることができました。外来スペースを診療時間終了後に配置換えし、ルミナリエを回廊状に展示するという簡単なものでしたが、一週間継続して行ったことで、それなりの来訪を頂きました。セキュリティ等の観点から、広報ができず、通りかかった職員の参加が中心でしたが、今まで興味を持っていなかった方々も相当数おられ、効果はあったものと思えます。来年度もリレーとは別枠で開催継続を考えています。

## 実行委員長 福山 康朗



総収入	104,789円
実行経費	7,249円
寄付総額	97,540円

## 宮崎県 宮崎市

## 宮崎実行委員会

## コロナ禍でも、がん征圧のためにできることを 実行委員長 ガードナー 真理

第9回宮崎大会は会場を新たに宮崎市中央公園に移し5月23日・24日に行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け中止という苦渋の決断となりました。国内においてじわじわとコロナ感染者数が増加し、宮崎でも確認されたという発表を受け「患者さま始めご来場者に万が一の事があってはならない」との思いからの判断でした。

ただ、このコロナ禍においても「がん」という病気には待ったなしです。がん患者さまの不安は増加するばかりです。会場へ集う事は出来なくても何かできないかと考え、本年は県内各地ご協力いただける場所でもがん征圧活動への啓発活動を開始いたしました。昨年の活動報告パネル展示を始め、がん患者さまに送るエールや、ご遺族の思いが書かれたルミナリエの展示、今だからこそがんの患者さまに必要なとされる対がん協会主催「がん相談ホットライン」のお知らせなど「がん」に関する情報発信を行っております。このような活動を継続できるのも今回中止になったリレー・フォー・ライフ・ジャパン宮崎へご理解を頂き、ご協賛や募金箱の設置等があったのことに感謝の念に堪えません。まだまだ先行きが不透明で不安な日々が続いておりますが、来年はみなさまと会場にて笑顔でお会いできることを願いながら実行委員一同がん征圧活動を継続して参ります。



総収入	231,267円
実行経費	186,779円
寄付総額	44,488円

## 沖縄県 浦添市

## 沖縄うらそえ実行委員会

## ラジオでつなげようリレー・フォー・ライフ

今年はコロナ感染拡大防止のため、会場で集まることを断念し、ルミナリエセレモニーのYouTube配信、そして私たちの暮らしと共にあるラジオを通して地域の皆様にRFLの意義やがんサバイバーの生の声をお届けしました。

ルミナリエセレモニーは公民館の広場をお借りして、バイオリンとピアノの生演奏と詩の朗読、バッグにはそれぞれの想いや願いが書かれ、会場にはHOPEの文字。それを配信しました。その後会場をFM21ラジオ局に移し、21時~RFL2020沖縄うらそえfromFM21がスタート。がん患者家族の悩みや問題、医療の課題、地域で何が出来るか、そしてRFLの意義などをお伝えしました。治療と仕事の両立について、ヘッドセラピー、マインドフルネス、抗がん剤の副作用、ピアサポート、サバイバーからのメッセージと音楽などを収録配信しました。生放送の「朝日を見よう」「ピンクリボンタイム in RFL沖縄うらそえフィナーレ」では出演した実行委員がサバイバーとしてケアギバーとしての想いを語り合い、配信中も視聴者からのメッセージが続々と届くなど、涙なみだの心温まる2日間でした。自宅で家事をしながら、子供の世話をしながら、体調が思わしくなくベッドの中からも聞けるラジオの良さを改めて感じ、来年も実施を予定。

今年のRFLは、沖縄のユイマール精神に支えられ、ご協力ご支援いただいた皆様のおかげで盛會に終えたことを心から感謝申し上げます。

## 実行委員長 上原 弘美



総収入	634,130円
実行経費	564,130円
寄付総額	70,000円



## ロゴについて



リレー・フォー・ライフのロゴは、太陽を月と星をかたどった世界共通のものであります。

それは昼夜を問わず、がんという病に立ち向かう世界中の数えきれない人々の勇気とリレー参加者への絶え間ないサポートを象徴しています。いつの日かがんで悩むことのない社会が訪れるという希望の星をかかげ、輝く太陽の下、降りそそぐ月の光の中で参加者が一丸となって共に病に立ち向かう。

リレー・フォー・ライフのロゴには、そんな思いが込められています。

## 2020 支援企業

RFLの運営にあたり、RFLの趣旨にご賛同いただきました企業・団体の皆様からさまざまな形でご支援をいただきました。ありがとうございました。

総合教育・生涯学習機関



※五十音順